

# 山上部

金華山は全山がチャートでできており、自然地形の切り立った崖がいたるところに見られる「天然の要害」です。

ロープウェイの山上駅の南側は、七曲り登山道(大手道)と百曲り登山道の合流地点となり、西側には煙硝蔵跡があります。

一の門跡(上ヶ格子門)(a)では倒れた巨石や石垣が見えます。巨石は山麓居館の入口部分と同じように立て並べていたと考えられます。門の西上は太鼓櫓(現在展望レストラン)。馬場と呼ばれる長い平坦地の北西部には堀切り(b)で尾根を遮断しています。上台所の南にある二の門周辺(通路の両脇)には大形の石材を使用した石垣が見られます。下台所から天守に至る通路の東側には石垣(d)が良好な状態で残っています。天守の土台の石垣は大半が近代以降の積み直しですが、一部には古い様相がみられます。

天守からは、濃尾平野を一望することができます。



一の門周辺(a)



堀切り(b)



二の門付近石垣(c)



金華山上空から西を望む



天守に至る尾根の東斜面の石垣(d)



国史跡岐阜城跡の範囲(赤線の範囲)

西暦	元号	城主	ことごと	西暦	元号	城主	ことごと
1201~04	建仁年間	二階堂行政	稲葉山に城を築いたと伝えられる	1575	天正3	織田信長	長篠で、織田・徳川軍、武田軍を破る
1525	大永5	長井氏	長井長弘・新左衛門尉が守護、守護代を追放	1576	天正4		信長、越前・加賀の一向一揆を鎮圧する
1539	天文8		この頃、斎藤道三が稲葉山城に拠点を置く	1579	天正7		信長、家督を信忠に譲り、岐阜城主とする
1544	天文13	斎藤道三	朝倉、織田の軍勢、井口城下に侵入	1580	天正8	織田信忠	信長、安土へ移る
1552	天文21		この頃、道三が守護の土岐頼芸を追放	1581	天正9		信忠、オルガンチーノに岐阜での布教を許す
1553	天文22		道三と織田信長、尾張聖徳寺で会見	1581	天正9		安土城天守竣工
1554	天文23	斎藤義龍	斎藤道三、家督を義龍に譲る	1582	天正10		信長、石山本願寺と和議が成立する
1556	弘治2		長良川の戦い 道三、義龍と戦い敗死	1583	天正11	織田信孝	信忠、舟木座を許可
1561	永禄5	斎藤義龍	斎藤義龍病死。龍興が跡を継ぐ	1584	天正12		信長、京都で馬揃えを行う
1564	永禄8	斎藤龍興	竹中重治、安藤守就が稲葉山城を占拠する	1585	天正13	池田元助	天目山麓に武田氏を滅ぼす
1567	永禄10		織田信長、美濃を攻略 本拠地を岐阜に移す	1585	天正13		本能寺の変 織田信長、信忠父子討死(6月2日)
			斎藤龍興、伊勢へ逃げる	1589	天正17	池田輝政	織田信孝、岐阜城主となる
			信長、薬市場宛の制札を出す	1591	天正19		信孝が挙兵し、秀吉、岐阜城を攻める
1568	永禄11		足利義昭を美濃立政寺に迎える	1591	天正19	豊臣秀勝	織田信孝、尾張大御堂寺で自刃
			信長、足利義昭を奉じて上洛する	1592	天正20		豊臣秀吉、池田元助を岐阜城主とする
			信長、加納宛の薬市場宛の制札を出す	1592	天正20		小牧・長久手の戦い 池田元助討死
1569	永禄12	織田信長	宣教師ルイス・フロイス、岐阜来訪	1596	文禄元	織田秀信	秀吉、池田輝政を岐阜城主とする
			山科言継、岐阜来訪	1596	文禄5		秀吉、池田輝政を岐阜城主とする
1570	元亀元		池川で、浅井・朝倉軍を破る 浅井・朝倉氏と和睦する	1600	慶長5		美濃一円に太閤検地
1571	元亀2		信長、比叡山延暦寺を焼く				池田輝政、三河吉田城へ
1572	元亀3		ルイス・フロイス岐阜再訪				豊臣秀勝、岐阜城主となる
1573	天正元		信長、小谷城を包囲、さらに越前へ追撃 浅井・朝倉氏滅亡				豊臣秀勝、朝鮮出兵中に病死
			信長、足利義昭を京都より追放				織田秀信、岐阜城主となる
1574	天正2		信長、岐阜城にて茶会を催す				秀信、錦嶋の与左衛門に淡新町の取り立てを命じる
			信長、伊勢長島の一向一揆を鎮圧する				秀信、オルガンチーノから洗礼を受け、岐阜に教会堂を建てる
							関ヶ原の戦いの前哨戦で岐阜城落城

岐阜城関連年表



**岐阜市歴史博物館**  
 電話 058-265-0010  
 開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)  
 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)  
 祝日の翌日、年末・年始



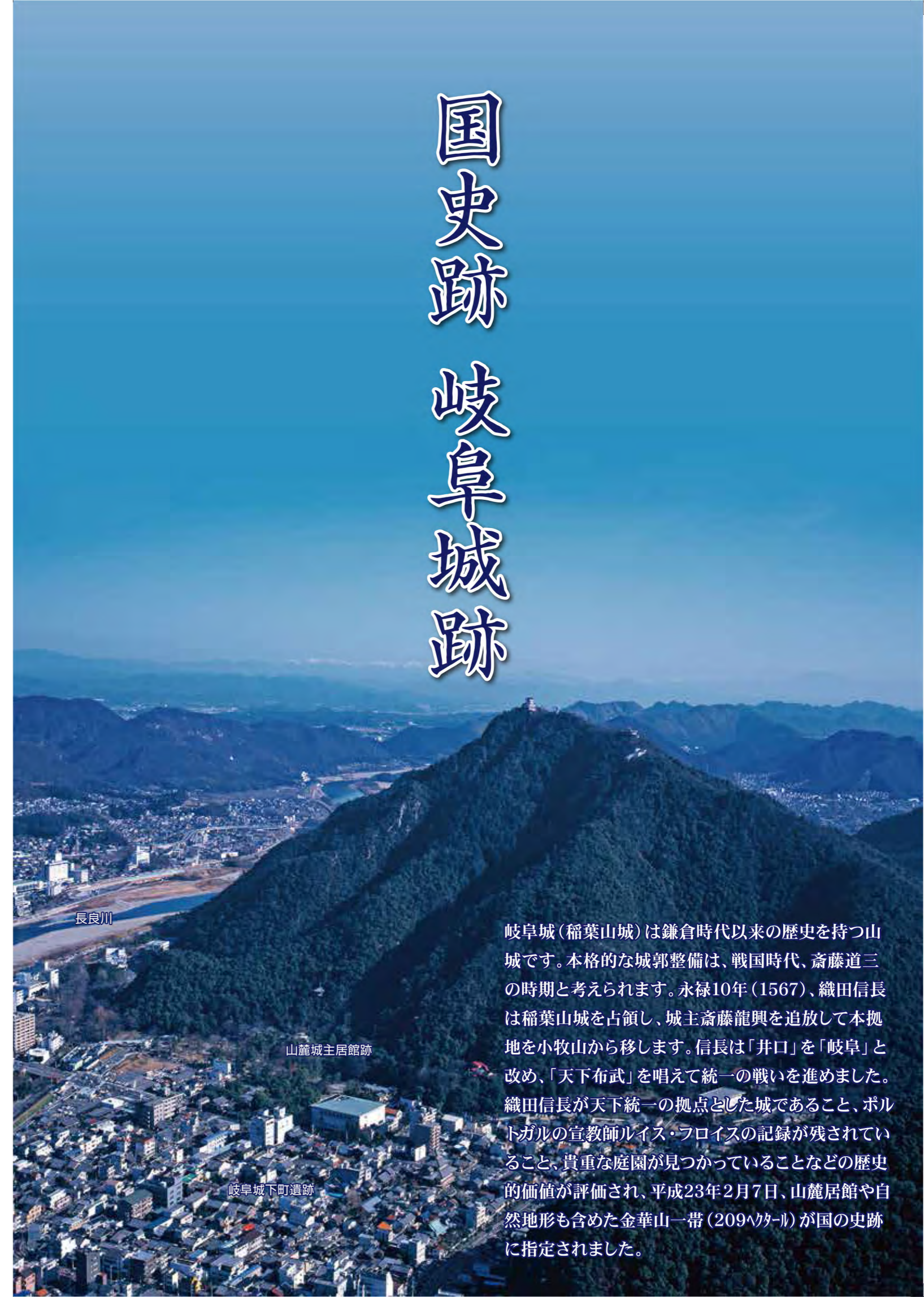
**岐阜公園総合案内所**  
 電話 058-264-4865  
 開所時間 9:00~18:00(3~11月)  
 9:00~17:00(12~2月)  
 休所日 無休

お問い合わせ 岐阜市教育委員会 社会教育課 〒501-8720 岐阜市神田町1-11 TEL 058-265-4141



岐阜城跡山上部概要図(作図:中井 均『岐阜県中世城館跡総合調査報告書』2003より一部改変)

# 国史跡 岐阜城跡



岐阜城(稲葉山城)は鎌倉時代以来の歴史を持つ山城です。本格的な城郭整備は、戦国時代、斎藤道三の時期と考えられます。永禄10年(1567)、織田信長は稲葉山城を占領し、城主斎藤龍興を追放して本拠地を小牧山から移します。信長は「井口」を「岐阜」と改め、「天下布武」を唱えて統一の戦いを進めました。織田信長が天下統一の拠点とした城であること、ポルトガルの宣教師ルイス・フロイスの記録が残されていること、貴重な庭園が見つかることなどの歴史的価値が評価され、平成23年2月7日、山麓居館や自然地形も含めた金華山一帯(209ヘクタール)が国の史跡に指定されました。

## 山麓城主居館跡

岐阜城の歴代城主の館は、金華山の西麓にある槻谷(けやきだに)にあります。谷の中心には谷川が流れ、その両側に複数の平坦地があり、段々地形をつくっています。

発掘調査の成果から、この段々地形は戦国時代に造られたこと、斜面には石垣が積み、平坦地ごとに庭園や建物が配置されていたことがわかってきました。

織田信長が造った居館の下層には斎藤氏3代(道三、義龍、龍興)の居館があります。その地面は信長の稲葉山攻略時(1567年)の火災による被熱で赤く変色し、地面の上には炭化物が堆積しています。

信長が安土城へ移った後は、嫡男の信忠が城主となります。本能寺の変で信長と信忠が自刃すると、織田信孝(信長三男)、池田元助、池田輝政、豊臣秀勝、織田秀信(信長の孫)と城主が変わり、織田秀信が城主の時、関ヶ原の合戦前哨戦(1600年)で落城、その後は廃城となります。廃城に伴い、通路は埋められ、石垣は崩されて石材が持ち出されました。



## 惣構

岐阜城の西側には城下町が広がっていました。町は惣構(そうがまえ)と呼ばれる土塁と堀で囲まれていました。惣構の北辺は現在長良川の堤防道路となっています。



## 巨大な館の入口(整備地区)

人の背丈ほどある巨大な石を通路の両脇に立て並べた(巨石列)入口が見つかりました。ポルトガルの宣教師ルイス・フロイスの残した記述にある「裁断されない石の壁」ではないかと考えられます。館を訪れた人は石の大きさに驚いたことでしょう。



## 岩盤を背景にした庭園(A地区)

谷川の北側にある平坦地の中央部で東側の岩盤を背景とした池の跡が見つかりました。

池の一部では川原石を敷き詰めた州浜やチャートの石材を並べた石列などの護岸が確認されました。池の南東部では礎石が見つかり、焼けた壁土片の広がりも確認できることから、建物があったことが考えられます。

平坦地の西側斜面では石垣が見つかりました。南斜面では西側の下段からA地区へと上る通路が見つかりました。



岩盤と石敷き遺構



西斜面石垣



通路跡



## 山水画の世界が広がる館の最奥(B地区)

居館の東奥は、谷川と石垣で区画された3つの段差のある空間からなります。

一番低い平坦地では厚さ10cmにもなる分厚い壁と特殊な基礎を持つ建物が見つかりました。中央の平坦地では水路と建物の礎石が見つかりました。ポルトガルの宣教師ルイス・フロイスの記述にある「茶の座敷」があった可能性があります。

一番東の区画では、谷川や切り立った岩盤を風景の一部として取り入れた庭園遺構が見つかりました。



居館の東奥



水路と礎石



焼けた分厚い壁土



被熱により赤く変色した石垣

## 館の中心部分の姿が見えてきた(C地区)

館の中心建物があったと考えられる谷川の南にある平坦地です。北側では館の入口から続く長さ30m直線通路が見つかりました。通路は廃城後に埋められていました。埋め立て土の中には大量の焼けた壁土、被た陶磁器、建物に使用されたの釘、炭化材が含まれていました。このことから、通路の近くに建物があったことが考えられます。平坦地の東端は巨石列で区画され、それを背景にした庭園遺構(池)と建物の礎石が見つかりました。南西部では建物の屋根の棟を飾った瓦が見つかりました。瓦の中には金箔瓦が含まれます。



直線通路と平坦地



C地区東端の巨石列



赤く変色した地面

## 信長公居館は巨大な庭園

発掘調査によって、各平坦地から池や石敷きなどの庭園遺構が5箇所確認されました。ルイス・フロイスも館の中に複数の庭園があったことを記述しています。

①は館の最奥にある庭園で、絶えず綺麗な水が流れ出る池であったと考えられます。池底には白っぽい長良川の砂が敷き詰められています。②は巨石列の前で見つかった庭園(池)です。池底には小さい川原石が敷き詰められています。この池からは、庭石として珍重される青石(緑色片岩)と呼ばれる石材の破片が見つかりました。③は②に隣接する場所で見つかった石敷き遺構で、枯山水の一部である可能性があります。④と⑤は谷川の北側で見つかりました。④は州浜や石列で護岸する池です。⑤は川原石を丁寧に敷き詰めた石敷きと水路からなる庭園遺構です。

館の中心を流れる谷川は、岩盤と巨石石組みによって自然の溪谷のように造形されています。各平坦地の庭園は、谷川や周辺の岩盤を景色の一部として取り入れる構造で、まさに館全体が庭園であったといえるでしょう。



東奥で見つかった庭園遺構①



巨石列を背景にした庭園遺構②



石敷き遺構と水路④



庭園に使用された緑色片岩⑤

### ルイス・フロイスの庭の記述

…この前廊の外に、庭と称するきわめて新鮮な四つ五つの庭園があり、その完全さは日本においてはなほだ稀有なものであります。それらの幾つかには、一パルモの深さの池があり、その底には入念に選ばれた鏡のように滑らかな小石や目にも眩い白砂はあり、その中に泳いでいる各種の美しい魚が多数おりました。またその中の巖の上に生えている各種の花弁や植物がありました。…

(ルイス・フロイス「日本史」松田毅一・川崎桃太訳より)

## 中心建物の屋根には金箔瓦が輝く

谷川の南側にあるC地区は平坦地の中でも面積が広く、館の中心建物があったと考えられます。南東部からは火災による被熱で変色した瓦が出土しました。瓦の中には1辺が約28cmの方形の飾り瓦(菊花文、牡丹文?無文の3種類)が含まれます。これらは屋根の棟を飾った瓦(棟板瓦)と考えられます。

瓦の表面の付着物の分析を行ったところ、花卉には金箔が施されていることが判りました。城郭に初めて金箔瓦を使用したのは、安土城と言われていますが、牡丹文と考えられる飾り瓦は、花びらを一枚ずつ貼り付け、非常に立体的に造っています。現在類例は無く、城郭に使用した金箔瓦の最古の例となる可能性もあります。発掘調査の成果によって、金箔瓦を葺いた建物は、平屋建てではなく、高低差のある平坦地に立体的に作られた複雑な構造の建物であったと考えられます。

館を訪れた人々は、仰ぎ見る建物の棟に輝く金色の瓦に釘づけとなったことでしょう。



金箔瓦(菊花文)



金箔瓦(牡丹文?)



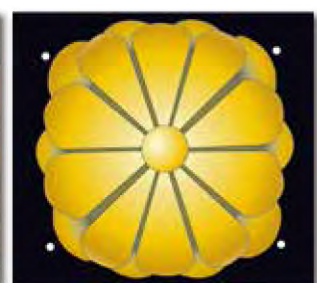
金箔瓦(牡丹文?)



瓦の出土状況



洛中洛外図屏風(二条城部分)  
(岐阜市歴史博物館蔵)



金箔瓦(菊花文)復元イメージ



金箔瓦(牡丹文?)復元イメージ